

出題分析		
試験時間 120 分	配点 100 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>今年度から本学部の一般入試は、従来の「小論文」の試験に、資料・データの読解に関する設問を追加し、「総合問題」という形式になった。</p> <p>〈大問Ⅰ・Ⅱ〉</p> <p>資料文を基にデータの読解等を行う大問が 1 題、与えられた数値を基に計算を行う大問が 1 題となった。事前に公表されたサンプル問題と形式がかなり異なっており、戸惑った受験者は非常に多かっただろう。試験時間は 30 分増えたものの、30 分で 2 題解くにはかなり苦しい分量だった。</p> <p>〈大問Ⅲ〉</p> <p>昨年度に引き続いて短文テーマ型の形式であり、与えられたテーマに対する定義づけと、その定義をもとに整合性のある論理を展開することが要求された。難易度については、大問Ⅲ単体で見れば例年通り（やや難）と言える。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	資料・データの読解。 Osea Giuntella 等 『Lifestyle and mental health disruptions during COVID-19』	コロナ禍初期における、身体的活動やメンタルヘルスの変化に関する論文を題材に、データの読解などを行う問題。問 1～問 4：サンプル問題では出題されていなかった英語の問題から始まったため、面食らった受験者は多かっただろう。しかし語彙・文法の難易度は共通テストレベルであり、落ち着いて読めば難しくはない。問 6：D と E は、読み取れる/読み取れないの判断に適さない記述であるが、コロナ禍の影響の有無を判断するための比較方法として適するかという観点でいえば、いずれも“正しいと読み取れる”ということだろう。問 8：資料文とは無関係の生物の問題である。コロナ禍でよく耳にした「PCR 検査」や「抗原検査」の内容を理解できているかが問われた。	やや難

設問別講評			
II	データの読解。 北川薫『身体組成とウエイトコントロール』	体脂肪量・率、除脂肪体重などを計算し、結果を基に考察する問題。文章は与えられているが、解答にあたって特段読む必要は無く、除脂肪体重が「体重から体脂肪量を引いた値」とであると推測できれば、ただの計算問題である。問 2(3)⑤：「体脂肪率が変わらずに」とあるが、表 1 の値は小数点以下が明示されていないため、(1)の結果を踏まえると、Bさんの体脂肪量が小数点以下で変動している可能性は否めない。⑦：「健康のために望ましい減量」の定義が文章などから読み取れず不明瞭であるが、Aさんの体脂肪率が減少していることを根拠に Aさんのことと推察する。	やや易
III	意見論述問題。 601 字以上 1000 字以内。	大学生は「子ども」なのか、それとも「大人」なのかを論述する問題。解答の方向性としては、「子ども」と「大人」との違いを定義づけたうえで、その定義と大学生を照合して論じることになるだろう。例えば、『子ども』と『大人』の違いは、スポーツであれ学業であれ、他者に教授できるだけの知識や技能、心得があるかどうかであると定義付けた場合、「子ども」は教授される側であり、対して「大人」は教授する側であると考えるのが自然である。また、大学の役割・機能を考えれば、大学は「子ども」が「大人」になるための場、すなわち他者に教授できるだけの知識や技能、心得を身に付ける場であると考えられるだろう。よって、「大学生」は知識や技能、心得を身に付けている途中であるので、「大学生」はまだ「子ども」である、と結論づけられる。解答例は、「大学生」の定義を定めたうえで、「大人」の定義を「法的な成年年齢であること」「一人前の社会の成員として認められていること」の 2 つの要件を満たしていることとし、「大学生」は「大人」ではないと結論づけている。	やや難

合格のための学習法

今年度より、早稲田大学スポーツ科学部では「小論文」(90分・50点)が廃止され、新たに「総合問題」(120分・100点)が課された。2025年2月26日時点ではまだ今年度の出題意図が公表されていないので、大学HPに掲載されている総合問題サンプルを確認する。

〈大問Ⅰ・Ⅱ〉

大問Ⅰは「社会生活基本調査の結果をもとに、データを読み取り、類推する総合的な思考力を評価する」、大問Ⅱは「運動・スポーツ、体力や生活状況、健康等と関連する調査の結果から、複数の図表を正確に読み取り、図表から情報を正しく読み取る力及び図表の情報を組み合わせて用いる力を問う」とある。

〈大問Ⅲ〉

大問Ⅲは「スポーツ科学を志す受験生に対し、自身の常識ないし認識を踏まえつつ、スポーツ科学の持つ学際性を理解し、スポーツを取り巻く様々な事象を多面的に捉える論述を通じて、思考力、判断力、表現力を問う」とある。

今年度の出題内容は概ねこれらに則ったものであった。そのため今後の対策として、まずはスポーツや健康、医療、公衆衛生などに関する知識や教養を幅広く身に付けておこう。自身の高校で履修するかどうかにかかわらず、保健体育、理科、地歴公民、情報、家庭科などの教科書がその一助となる。その上で、新聞や雑誌などの記事、テレビのニュースなどをチェックし、スポーツや健康についての考えを、知識と絡めて自分なりに深めておくことが肝要である。問題演習では、統計資料型の問題を和文・英文問わず解き、様々な資料の様式に慣れておこう。小論文では、本学部の過去問だけでなく、他の大学の小論文問題にもあたり、どのような出題形式にも対応できるように練習しておくべきだろう。